

都市再生整備計画 事後評価シート
鷺敷・相生地区

平成24年3月


徳島県那賀町

様式2-1 評価結果のまとめ

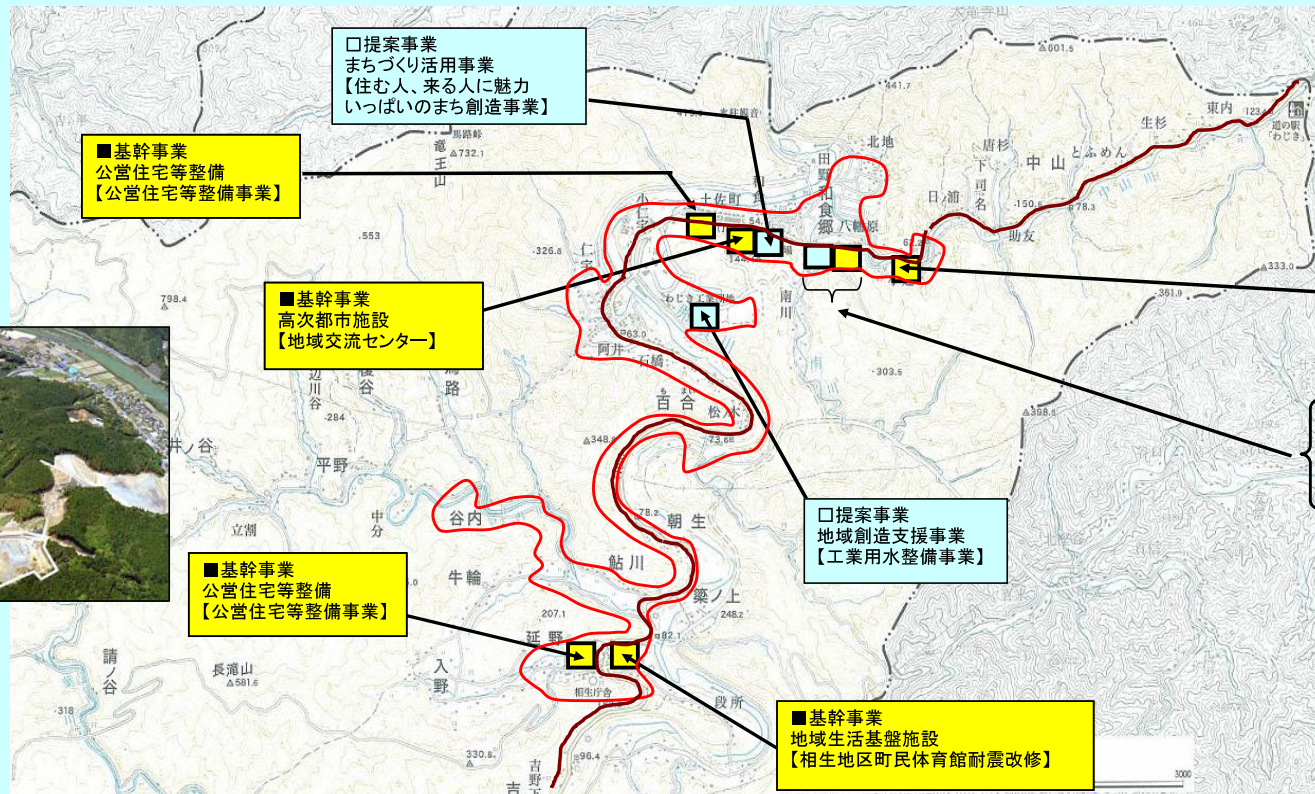
都道府県名	徳島県		市町村名	那賀町		地区名	鷲敷・相生地区(わじき・あいおいちく)			面積	600ha		
交付期間	平成19年度～23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	1,408百万円	国費率	0.406				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(中山すくの谷橋橋梁改築)、地域生活基盤施設(相生地区町民体育館耐震改修)、高次都市施設(地域交流センター、子育て世代活動支援センター)、公営住宅等整備事業(公営住宅等整備事業)										
		提案事業	地域創造支援事業(工業用水整備事業、鷲敷こども園整備事業)、まちづくり活動推進事業(住む人、来る人に魅力いっぱいの推進計画の策定、企業誘致活動、民間住宅誘導活動、保育サービス向上研修活動、防災意識の高揚、交流機会の創造)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(町道田中線)	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		提案事業	—	—			—						
	新たに追加した事業	基幹事業	高次都市施設(子育て世代活動支援センター)	当初、わじきこども園を含む当該施設が提案事業に含まれていたが、第1回変更時(H19.8)に支援センター分を基幹事業(高次都市施設)へ変更した。			影響なし。						
		提案事業	—	—			—						
交付期間の変更	当初	平成19年度～23年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	定住人口	人	318	H17	362	H23	—	359	△	あり なし	町全体の人口減少傾向に対し、公営住宅の新築整備により、地区内の公営もしくは民営住宅における各居住者数が現状維持もしくは増加につながった。	平成24年5月
	指標2	就業人口	人	395	H17	485	H23	—	543	○	あり なし	工業用水の整備による隣接企業への供給開始や、公営住宅整備による居住環境の充実により、安定かつ堅実な就業環境が実現したことで確実な増加傾向が見られる。	
	指標3	避難施設の収容人数	人	3,000	H17	3,481	H23	—	3,620	○	あり なし	整備対象施設であった相生体育館のみならず、隣接する相生中学校や地域交流センターにおいても耐震改修整備がなされることから、収容人数の増加につながった。	
	指標4	保育サービス人口	人	189	H17	226	H23	—	140	×	あり なし	若年層の町外への流出が予想以上で、結果4施設合計で140止まりとなり、目標人数(226人)まで増やせることは出来なかった。	平成24年5月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	わじきこども園・支援センターの利用者数	人	1,844	H20	/	/	—	2,503	/	/	町人口の減少、若年層の流出が予想以上に加速しているため、施設全体の利用人数は増加しなかったが、鷲敷こども園については事業効果の発現は見られる。	平成24年5月
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 中山すくの谷橋の拡張整備により、円滑な避難路が確保された。これにより周辺住民における居住環境の安全性及び回遊性の向上が図られた。 わじきこども園、子育て支援センターの整備による一時的な利用者によって、当該周辺地域における人の流れが活発になった。また当該施設周辺の介護福祉施設などで構成される一連の交流拠点が生まれ、地域住民の情報交換、発信の場として期待される。 地域交流センターの誕生により、地域防災の情報発信はもとより、町民全体の文化学習の場として、もしくはイベント広場として交流が深められる施設として活用されることが大いに期待される。 町全体としては人口減少に歯止めが掛けられないが、高品質な町営住宅の整備や工業用水整備といった地元企業への優遇措置により人口定着が図られ、本地区においては賑わいが保持されている。 												
5)実施過程の評価	実施内容												
	モニタリング	なし	実施状況				今後の対応方針等						
	住民参加プロセス	行政と各自治会(住民)との間で行われる、行政連絡委員会	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後も住民の意見・動向などを把握し、町行政に反映させるとともに、町の施策の周知を図るものとする。						
	持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										


様式2-2 地区の概要

鷺敷・相生地区(徳島県那賀町) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値	目標値		評価値		
大目標: まちづくりのビジョン、住民が互いに手をたずさえ、自分たちの手で創る那賀町		定住人口	単位: 人	318	平成17年度	362	平成23年度	359	平成23年度
目標1: 若者や住民の雇用・就業環境の充実及び住環境の整備		就業人口	単位: 人	395	平成17年度	485	平成23年度	543	平成23年度
目標2: 交流拠点の創出と防災機能の向上		避難施設の収容人数	単位: 人	3,000	平成17年度	3,481	平成23年度	3,620	平成23年度
目標3: 住む人、来る人に魅力いっぱいのまちづくりの創造		保育サービス人口	単位: 人	189	平成17年度	226	平成23年度	140	平成23年度
		わじき子ども園・子育て支援センターの利用者数	単位: 人	1,844	平成20年度			2,503	平成23年度



鷺敷工業団地





中山すくの谷

凡例

- 基幹事業
- 提案事業

まちの課題の変化

- ・町人口減少に歯止めをかけるべく実施した公営土佐団地の整備、完成により、良好な居住環境が確保され、鷺敷地区内における定住が促進された。相生地区で来春完成の新王子原団地も、同様に、安定した定住が期待できる。
- ・就業人口の低下も、基盤整備、工業用水整備により工業団地に隣接する大塚テクノの業務拡大が促進され、結果、雇用人数の増大が図られた。
- ・各地域の住民交流を活性化し、防災情報の発信拠点として期待される地域交流センターが完成した。(普段は町民の学習・憩いの場として、災害時などにおいては司令室として活用)
- ・相生地区における体育・文化の拠点として、また避難所に指定され、耐震改修が急がれていた相生地区町民体育館の耐震改修整備が完了したことで、大人数が収容できる避難所が確保され、住民にとっては、安心かつ安全な施設の整備により、災害時におけるこころの余裕が生まれた。
- ・夫婦共稼ぎによる子育て支援を支援する、わじき子ども園の完成により、一時預かりによる託児も選べるようになり、育児相談や親同士の情報交換、仲間作りといった交流の場を提供することで保護者の利便性が向上した。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・既設住宅の利用状況等を総点検し、補修もしくは廃止といった仕分けを実施することにより、町内における居住環境の向上、定着を目指す。
- ・1ターン1ターンによる転入者(居住・就業)を円滑に進めるよう、人材採用に対する助成や地元企業の求める人材を結びつけるサービスを検討する。
- ・地域交流センターを、他世代の町民が交流できるよう、生涯学習やスポーツ講習などのメニューを用意する。また参加しやすい定期イベントなどを継続開催し、有効活用を図る。
- ・地域住民との協力で、利用者減少傾向にあるわじき子ども園以外の保育園、幼稚園を、地域活動支援の場とする。(イメージダウンを防ぐ)